

小野 久三（おの・きゅうぞう）

1、プロフィール

評論家、文筆家。東京帝国大学時代県文壇で評論を発表。戦後東奥日報社に入社、ジャーナリストとして論説を中心に文筆活動を続ける。第 14 回（昭和 47 年）青森県文化賞受賞。

<生没>

1904(明治 37)年 11 月 2 日 ~ 1980(昭和 55)年 12 月 10 日

<代表作>

『青森県政治史』全 3 巻

『社会と人間』『八戸昭和史～激動する情勢下の一地方都市』

<青森との関わり>

弘前市に生まれる。旧制弘前中学校、旧制弘前高校卒業。青森師範学校などで教職。戦後、東奥日報社勤務。

2、作家解説

明治 37(1904)年 11 月 2 日、弘前市大字下鞆師町 7 番地に生まれる。時敏小学校、旧制県立弘前中学校を経て、4 年修了で大正 11 年 4 月旧制弘前高等学校に入学。14 年 4 月、東京帝国大学文学部印度哲学科へ進んだ頃から、山本瞭の筆名で、県文壇での評論活動を開始した。

昭和 4 年 3 月、大学卒業。弘前和洋裁縫女学校、青森県師範学校の教壇に立つ。

6 年 4 月、上京。平凡社に入社。編集部勤務。この間『教育学概論』などを著し、『支那文明史話』などを訳述した。8 年 10 月、鹿児島県出身の柿木原フジノと結婚。翌 9 年長男亥留馬誕生。のち次男慧、三男勉を設ける。11 年、東京市役所、15 年内閣情報局に勤務。20 年辞職。まもなく、一家で弘前に転住、敗戦を迎えた。

21年東奥日報社に入社、東京支社勤務となる。25年、本社に転勤、社説とコラム「天地人」を担当。

昭和33年、東奥日報社70周年記念事業として、『青森県政治史』の執筆を依頼される。34年八戸支社長。36年11月、東奥日報社を定年退職。38年、八戸市立図書館長。11月、『社会と人間』刊行。40年8月、『青森県政治史』第1巻が刊行された。42年、「デーリー東北」論説委員。47年11月、第14回青森県文化賞を受賞。12月、『青森県政治史』第2巻を刊行。52年5月から54年6月まで、「陸奥新報」に「昭和戦前の青森県と津軽」を連載。54年6月、『八戸昭和史～激動する情勢下の一地方都市』を刊行。55年2月、『青森県政治史』第3巻刊行、完結となる。55年秋、病気のため、中部病院へ入院。11月下旬退院。12月10日、青森市西滝の自宅で急逝。享年76。

3、資料紹介

○『青森県政治史』全3巻

図書

1965(昭和40)年8月1日(第1巻)

210mm×150mm

幕末明治以降の近代日本と青森県の関わりを総合的融合的に著述。内容分野は、政治・経済・社会・文化・教育・軍事・学芸・産業・りんごと多岐壮大。第1巻明治前期編、2明治後期編(昭和47・12)、3大正昭和初期編(昭和55・2)昭和初期は尾崎竹四郎の執筆。